

結 y u i

2010. 8. 29
No.35

平和でなければ、 落語もできません

——立川談之助さん つくば口演に寄せて

「笑い」は戦時には禁物

東京・台東区の本法寺の境内に3メートル余の石碑、「はなし塚」がある。建立は太平洋戦争開戦直前の1941（昭和16）年10月。当時の講談落語協会や寄席関係者が、廓嘶（くるわばなし）や妾（めかけ）、間男物など「時局にふさわしくない」53演目を選定、目録を塚の下に埋めたものだ。

戦争激化の中、言論への当局の弾圧は過酷を極めていた。寄席にも官憲の「臨検席」ができ、当然落語にも監視の目が。講談などは戦意昂揚の話も少なくないが、落語はばかばかしい話ばかり。笑わせる必要の無い時局＝落語禁止になる危険が迫っている、と「自主規制」の形で先手を打ったものだという。紙入れ、明烏（あけがらす）、品川心中、子別れなどの名作から、当時すでに「博物館入り」していた白銅やつづら間男など、今では誰もやらないものまで53演目、53という半端な数なのは53＝ゴミに掛けているというから、談之助さんはこれを「落語家特有の皮肉で当局への反発」と見ている。

「笑い」は権力をつく

談之助さんが「禁演落語」を始めたきっかけは、数年前、戦争体験者のお客さんから「戦争を忘れないために禁演落語をぜひやってほしい」と頼まれたこと。それまでは存在を知る程度だったという。「調べてみたら禁演落語と知らずに演じているものがずいぶんあった」そうだ。

「戦争に笑いは必要ないからという訳でしょうが、どう考えたって落語を禁止したからといって戦争に勝てるはずがないことぐらい子どもでも分かる」

「戦争に笑いは必要ないからという訳でしょうが、どう考えたって落語を禁止したからといって戦争に勝てるはずがないことぐらい子どもでも分かる」



東京都台東区本法寺の「はなし塚」

「禁演落語」をご存知ですか。戦時中演じることを禁じられた落語、その数は53演目。10月3日（日）に開催される「憲法9条の会つくば」5周年記念のつどいのメインゲスト立川談之助さんをご紹介します。



という異常な状態ではそんなまともな考えも通じなくなるのが恐ろしい事です。」

落語が権力に恐れられていたことを示すエピソードでもあるが、落語の力について談之助さんは「落語は庶民の本音を描く笑い、配給のひど

さを笑い、戦地に食べ物がないことを笑い、威張っている軍人や警官を笑う。登場人物はいいかげんに生きていますが、それが時に権力をつくのです」と。

禁演落語の口演を通して各地の「9条の会」とのご縁も広がり評判に、今回つくば口演が実現することとなった。そして談之助さんの活動は進化を続け、禁演落語、いっそのこと全部やっちゃえ！と、2009年9月から東京、なかの芸能小劇場で「禁演落語を聞く会」を定期的に主催している。

「笑い」が世相を斬る

今回の5周年のつどいでは現代の世相を切る、講演「世相巷談」も聞き逃さない。「思いやりとは強いものが弱いものを助けるものなのに、一番強い国アメリカに思いやり予算とは道理に合わない」「世の中には戦争をやりたい人たちがいる。憲法を変えてまで戦争をやりたいがる政治家の子弟に、自衛隊員は一人もいない」など、思わずうなずく。

談之助さんからつくばの皆さんにメッセージ「落語を聞いて安心して笑えるということが当たり前のように出来るのも、世の中が平和であればこそだということをお思い頂いて、心おきなく笑ってください」10月3日のカピオホールは来場者の笑いに包まれるに違いない。

憲法9条を危うくする国会議員比例定数削減

長田満江 (憲法9条の会つくば・代表)

菅首相は7月30日の記者会見で、「衆議院の比例定数80削減、参議院定数40削減」案を8月中にまとめ、12月までに与野党で合意するとの方針を明らかにした。これは、議会制民主主義の根幹に関する問題と言わざるを得ない。すなわち、昨年衆議院選挙結果に基づく試算によれば、比例区を80人削減すると、憲法9条の存続を公約に掲げた社民・共産の両党は議席数を大幅に減らし、その議席占有率は1.8%になってしまうのである。一方、民意を反映するように、480のすべての議席を各党の比例票の得票率で配分すると、上記2政党の議席数は55、議席占有率は11.5%に跳ね上がる。

政治改革・財政再建・事業仕分けとムダの削減といった、一見、国民の側に立ち、国民が反対しにくく、かつ受け入れやすいような理由を掲げて出されてきたこの比例定数削減が何をねらいとしているかは明白であろう。先に導入した小選挙区制をより強固なものとし、それを土台とした二大政党制を実現することであり、それによって主権者国民の選択権を奪い、憲法9条を守り生かす声を抑えつけることにある。

財政再建を言うのであれば、真っ先に考えるべきは、消費税の引き上げではなく、米軍への「思いやり予算」(年間2000億円)、駐留軍関係費(同6000億円)、さらにグアム移転費(同5000億円)といった、理由なき歳出を削除し、膨大な軍事費を削減し、日米安保体制に代わる新しい日米関係を模索することではないのか。それに加えて、企業には利益に応じた負担を課すべきではないのか。

いま、私たちにできることは、平和に人間らしく生きたいという圧倒的多数の国民の声をすくいあげ、多様な意見が反映する政治を実現できるよう、党派を超え、イデオロギーを超え、広く深く運動を展開していくことである。



会ではつくば市有権者15万人の過半数獲得を目標に「憲法9条を変えさせない」署名に取り組んでいます。8月は定例署名を8月1日(日)、9の日署名を9日(月)ナガサキの日に、新日本婦人の会と合同で「核兵器のない世界を」署名と共に行ないました。

「憲法9条の会つくば」の活動から

◆賛同人 2010年8月20日現在
総数 754名 (市内567名)
◆9条署名 8月17日現在 9078筆

続々！個人署名

亡き父を想い署名 いつでも誰にでも！

昨年3月に個人署名を訴えてから1年4か月、さらに今年7月に2回目の訴えを発送してから1か月が経ちました。この間、延べ78人の賛同人の皆さんから821筆の署名が寄せられました。賛同人個人からコツコツと集められた署名一筆一筆に心からの感謝と敬意を表します。“小さい人間の多勢の力”を引き続き期待しております。(署名担当)

*「個人署名」へご協力頂いた方々にお話を伺いました。随時掲載していきます。

S.Mさん：私の父は戦死した。父の顔を見ることなく育った。戦争は絶対にダメである。父が生きていたらどうするだろうと考え模索しながら行動している。

Y.Uさん：だんだん世の中が変わってきて、9条が大事にされていないような気がする。9条の会のような運動が大切。なかなか時間がとれないが、できるところで少しでも協力していきたい。

N.Tさん：職場の中で、みんなに回して署名をしていただいた。職場に9条の会ができたと思うが、できるところからやろうと思っている。

K.Uさん：戦時中に学徒動員された。戦争で日本が勝つと信じて小学生を過ごした。教育でこうなるのだと実感している。孫にこんな思いをさせたくないと思う。

Y.Hさん：署名をお願いするとほとんどの方がしてくれる。本当に戦争はいや、9条を守らねばという人もいるが、中にはアメリカに応援してもらっているから日本が守られている、もっと軍備を充実した方が良いという人もいる。そんな方にも署名をしてもらった。

D.Kさん：テニス仲間に声をかけた。皆さん署名してくれる。基本的に9条を守ろう、良く分からないが戦争はいやだという人が多い。でも若い人の中にはそんな意識を持ってない人もいるようだ。家族制も崩壊しつつあるようだし、自由という考え方がいきすぎてしまっているのだろうか。戦争を体験した高齢者には、若者を鍛えるために徴兵制が必要という考えの人も見受けられる。

Y.Tさん：いつも心がけている。ポケットに署名用紙を忍ばせ、どんな人にも話す。友達、親戚、初対面でも。人を選ばない。



父の出征

終戦の時7歳だった私の、その頃の記憶は定かではありませんが、何故か一つだけはっきりと覚えていることがあります。ある日、父と2人で遊んでいたところ、父が突然見知らぬ人に呼び出されました。私も父について外まで行くと、門の外で待っていた男の人が父に何か手渡します。それが赤紙(召集令状)だとその時は分かりませんでした。この情景だけは何故か鮮明に焼き付いているのです。その後、何時どのように父が出征していったかは記憶にないのですが、病弱な母と4人の子ども達を残しての出征です。温厚だった父の性格から考えれば、さぞや後ろ髪引かれる思いだったろうと思わずにはられません。

農業に取り組む兄

農家だった我が家を支えたのは8歳年上の長兄でした。父親代わりで良くリヤカーを引いて畑に行く後ろ姿を思い出します。最近、「満蒙開拓団青少年義勇軍」の映像を見ましたが、この人たちも兄と同じ年頃、さぞ大変だったろうと涙がでました。

私には今14歳の孫がいますが、あの頃と比べようもない幸せな生活を送っています。平和が一番と思わずにはられません。

合歓(ねむ)の花を送る母

家の庭に大きな合歓の木がありました。父が大好き

だった花だったそうです。この花が咲くと、母は父への便りに、薄紅色の美しい花を幾つか大事そうに同封し送っていました。今はこの木もなくなりましたが、その時の母の切ない気持ちが、今の私にはよく分かります。



空襲警報と防空壕

島名国民学校に入学しました。校庭での朝礼が始まると「空襲警報だ、伏せろ」、教室では「机の下に隠れろ」と先生から指示されたり、校庭の隅には各地区毎の防空壕もあり避難したこともあります。警報発令で帰宅することもありましたが、この時には6年生が背負って走ってくれました。怖かったです。

父の復員

幸い父は無事復員することができましたが、戦地でのことを余り話しませんでした。復員後のにわか百姓で苦勞が絶えず、それどころではなかったのかも知れませんが、今は、もう少し父のことを知っておけば良かったと反省しています。

無事に父を迎えられたことは本当に良かったと思います。もし父が戦死していたら私たち家族はどうなっただろうと考えると、本当に暗い気持ちになります。子どもや孫たちにあんな思いはさせたくない。世界中が平和になって欲しい。心から願っています。

います。(ムーさん)

コカリナで9条署名を訴えました!

8月は、ヒロシマ、ナガサキ、終戦記念日とマスコミもこぞって取り上げるためか、平和への関心が高まるように思えます。「9の日署名行動」にコカリナグループとして参加しました。道行く人がコカリナの音に足を止めてくれて、1筆でも多く署名が集まればと思つての参加でした。交代で署名を訴えました。「長崎に原爆が落とされた日です。核のない世界に向けて署名に協力してください」との声に中高生が大勢署名してくれました。小学生の1人は「学校で憲法の話などしない」と答えていました。毎月行っている署名行動。だからこそ、地味な積み重ねが大事なことを学んだ1日でした。(山崎)

行動予定



9月5日(日)定例署名行動 12:00~13:00

11:30 アルス図書館前集合

9月9日(木)9999行動 9:09~10:00 つくば駅

9月9日(木)、10月9日(土)9の日署名 10:00~11:00
西武デパート2階の外広場(西武とキュートの間)

9月19日(日)定例会 10:00~12:30

手代木公民館和室(予定)

10月3日(日)「5周年のつどい」13:30~16:00

カピオホール

10月15日(金)事務局会 19:00~21:00

手代木公民館(予定)

「平和の鐘、一振り運動」は、長崎原爆で父と兄を亡くしたつくば在住の文筆家鶴文乃さんから提唱された運動です。広島、長崎の犠牲者を追悼し、長崎を最後の核兵器の戦場とすることを誓い、核なき世界を築くために、長崎原爆投下と同時に9日午前11時2分、全国各地の寺や教会の鐘を一斉に鳴らそうと、呼びかけられました。



当会では6日広島原爆の日にも平和の鐘を撞いています。

←9日は長寿館さんでも子どもたちと鐘を撞きました

平和の鐘に祈りを込めて

8月6日の広島原爆記念日、落とされたその時間に鐘を打つ「平和の鐘、一振り行動」に初参加しました。北斗寺の鐘撞き檣に登り、真夏の青い空に向かって鐘を撞きます。手を合わせると、広島で6年間生活し平和運動に参加したことが走馬燈のように思い出されました。原水禁世界大会、平和行進、署名活動、被爆者との交流…これからも被爆者の願い、人類の願いである核廃絶に向けてあらゆる運動に参加していく決意をした節目の行動となりました。

いま国連事務総長が核廃絶を主張し、広島、長崎の式典に参加するという画期的な変化を作り出しています。人間社会というものは固定されたものではなく、確実に変化して前進していくものであることを感じて

～戦後65年、あたためて平和への祈りを込めて～

わたしの終戦記念日

瀬谷道子インタビュー
新水社



65年前の終戦の日、私は3歳になったばかりだったため、その日のことは何も覚えていない。戦争の記憶といえば、灯火管制の薄暗い灯りの部屋に一人置いてきぼりにされ、兄妹みんなが道路の方へ走って行ったこと、姉に引きずられながら防空壕に逃げ込んだこと、そういう断片が薄らと脳裏にある。それが本当に私の記憶なのか、誰かに聞いた話なのか…

7月上旬、15年来の友、瀬谷道子(女性誌「ウィメンズステージ」編集長)からメールがあった。「少女から娘時代を戦争の中で過ごした12人の女性たちに「戦争」と共に生きた日々と平和への思いを聞いて、『わたしの終戦記念日』を出版した。貴女も良く知っている人たちばかりよ、その中のお一人小森香子さんと、大勢の人に読んでもらいたいね、と昨夜話したのよ」と、メール文は熱かった。とにかく、すぐに荷造ってくれるように頼んだ。

赤木春恵、清川妙、小森香子、東海林のり子、田部井淳子、中村メイコ、野末悦子、羽田澄子、樋口恵子、堀文子、吉沢久子、吉武輝子さんらの①終戦の日の年齢と場所、②戦争体験、その時何が起こったか、③戦争をくぐり抜けどう生きてきたか、④若い人たちへのメッセージ、平和への思いなど、インタビューをまと

めたものだ。70、80、90歳を越えても第一線でご活躍の皆さんの体験談や、苦酸をなめながらも逞しく生きるその様に大いに触発され、皆にご紹介したいと思った。「母へのプレゼントにします」「私と同年代だわ」などの声が聴かれ、もうつくばで60冊読まれている。

平和は一朝一夕に出来るものではない、わたしたち一人ひとりがつくっていくもの、そんな思いでいつでも、何処へでも持って歩いている。(菊地二三五)

*10月3日に開催される当会の5周年記念のついででも販売予定です。

千羽鶴の祈り in Tsukuba 2010



広島、長崎に投下された原爆を製造するためのウラン採掘に従事し、史上初めての被曝者となった米先住民ホピ族の人々と、広島で8歳の時に被爆した村上啓子さんによるパフォーマンスと語りの会が、8月3日ノバホールで、平和への祈りを込めて催されました。

静寂の中に響くネイティブフルートとドラム、森羅万象を包み込むようなフープダンス、ケン・コシオさんの広島地太鼓による「ヒロシマ」、和太鼓二台による兄弟太鼓とネイティブドラムの協演…「平和に満ちた人々」といわれるホピ族の神が降り立ったような、暖かく力強いパフォーマンスでした。

村上さんが語る被爆体験と詩「しずかに歩いてつかあさい」の朗読から、被爆という悲劇に見舞われた人々の真実と、世界への連帯が訴えられ、核兵器廃絶と平和への思いを新たにしました。(塩)

インフォメーション

◇考えよう「消費税によらない日本」

—「財政再建」を口実とした憲法破壊を許さないために

9月5日(日) 13:00～水戸市国際交流センター
講師：富山泰一さん(日本納税者連盟事務局長、税理士)
資料代：500円(学生無料)
主催：憲法を守り生かす茨城ネットワーク
問合せ：水戸翔合同法律事務所内Tel.029-231-4555Fax029-232-0532

◇第24回日本高齢者大会 in 水戸

9月13日(月) 茨城大学 13:00～16:30 学習会：生存権裁判と生活保護、介護保険制度を改善する、憲法9条と国民投票法など 分科会：産直で結ぶ食の安全・自給率向上、これからの葬儀・墓を考えるなど
9月14日(火) 茨城県立武道館 9:00～12:00
全体会：記念講演「人にいのち、音にもいのち」池辺晋一郎さん/参加費：1日2500円 2日5000円
問合せ：日本高齢者大会中央実行委員会Tel./Fax03-3384-6654

◇響きあう歌と器

<伊集院真理子陶芸展> 9月19日(日)～24日(金)
10:30～17:00 初日19日のみ13:00から開場
*伊集院真理子さんは沖縄渡嘉敷島の「アリラン慰霊の

モニュメント」制作者です。

<李政美(いちよんみ)コンサート> 9月25日(土) 14:00～16:00 17:00～19:00 2回公演
チケット：ワンドリンク付3000円
場所：ギャラリー庵(つくば市中別府593-11Tel.029-847-1292)/主催：歌と器つくばの会/予約：090-7834-0263(高橋)

◇第50回茨城県母親大会—平和な世界を子どもたちに

9月26日(日) 茨城県立水戸第三高校 10:00～16:20
特別分科会若者の広場：10:00～12:30「戦争はなぜ起こるの? 平和ってどんなこと」小森陽一さん(全国「九条の会」事務局長)
分科会：子どもの貧困にどう取り組むか、男女共同参画社会の実現にむけてなど
全体会：13:30～16:00 映像と語りでつづる「県母親大会50年のあゆみとこれから」
記念講演「いのちの重さ」澤地久枝さん(全国「九条の会」呼びかけ人、ノンフィクション作家)
資料代：一般1000円、障がい者800円、高校生以下無料、ファミリー1000円
問合せ：茨城県母親大会実行委員会Tel.029-824-8949 Fax029-824-8947